



地域おこし協力隊

さぬきの輪 TIMES 13

さぬきの輪 TIMES 13

目次

- 4 地域おこし協力隊
Local community 特集
- 6 小豆島町 地域おこし協力隊
大和 美祈
- 8 東かがわ市 地域おこし協力隊
榎田 修士
- 10 地域をつなぐ 香川県のローカルを導く人
黒川 慎一朗
- 12 協力隊のオススメ香川歩き
- 14 さぬきの輪の活動
- 15 地域おこし協力隊員の活動場所



撮影／さぬき市 地域おこし協力隊 折原拓人 撮影場所／観音寺市 一の宮海岸



地域おこし協力隊を中心に、香川県内で
地域活性化に取り組む人々を紹介する冊子です

都会から移り住み、地域おこし活動を行う地域おこし協力隊。その活動内容は様々ですが、それぞれの得意分野を活かし、地域の方をはじめ、多くの方々に支えていただきながら、互いに協力し合って活動しています。

香川県の地域おこし協力隊がどのような活動をしているのかを知り、より身近に感じ、応援していただけたらと思います。

香川暮らしの魅力とともに、彼らの等身大の姿をご覧ください。



さぬき市津田の松原で撮影された「すなはまフェス」のTシャツアート
撮影／香川県 地域おこし協力隊 香川 希
撮影場所／さぬき市 津田の松原

Community Supporter



小豆島町 地域おこし協力隊

田中 久美子 Tanaka Kumiko

兵庫県神戸市出身。大学卒業後、舞台・イベント照明の業界で12年間勤務。照明デザインや空間演出の奥深さにハマリ、毎日がお祭りのような華やかな業界で、“仕事”も楽しかったが…。40歳を前に、ふと自分の生活の“不自然さ”に違和感を感じはじめ、これからの生き方を模索。あこがれていた“田舎暮らし”を実現させるため、好きだった小豆島での仕事探しをしている時に、SNSで地域おこし協力隊の募集（ミッションは「移住促進」）を見つけて、移住を決意した。

知らない人を、知っている人に

2020年に着任した私の活動は、最終年を迎えています。移住を検討されている方に、できるだけ移住後のギャップを感じないように素の情報を伝え、気持ちよく移住していただくためのサポートをすることが主たる活動です。私自身、積極的に自治会活動（草刈り、夏まつりや地域イベントのお手伝い、消防団の活動など）に参加するなどして島に溶け込む暮らしを実践しながら、“ミスマッチのない移住”を意識した情報発信を心がけています。



ガレージでの不用品利活用

小豆島への移住の際、「移住先での知り合い」を作る大切さを、身をもって知っていたので、“島の人”と“移住したい人”の接点を繋ぐ機会と場所を作りたい。また、空き家が流通しない理由の一つに「知らない人に家を貸したくない!」という、持ち主の心情が大きく影響していることがわかってきたので、それを解消したい。「知らない人を、知ってる人に…」そんな想いをカタチにし

たのが、「空き家を活用した拠点づくり」です。

まずは、空き家を片付けるとたくさん出てくる不用品などの利活用を促す場として、ガレージを「リユースステーション」にしました。これからは、島の人と移住希望者が交流できるワークスペース「離れ」の整備や、蔵をギャラリー（展示スペース）に改装することも計画しています。

この試みは、移住希望者が抱える不安と、空き家の持ち主が持つ心情の双方の壁や課題を解消し、地球に優しい持続可能な小豆島のまちづくりにも繋がるものです。リユースステーションのお手伝いをしてくださる島民も現れており、島内の新しい観光名所となることも夢みえています。この先、利用価値を高めていくチャレンジを続けていきたいと考えています。



島の人たちとの日常風景

Policy

- ・“ミスマッチの無い移住”を意識して、素の情報、盛らない情報を伝えることを心掛けている。
- ・地元の島暮らしの「日常」が大好きで、自治会活動にも積極的に参加するなどしている。

Chuckaman (チャッカマン)

観音寺市 地域おこし協力隊

角野 由佳 Kadono Yuka

関西大学卒業後、東京の広告会社でデザイナーとして勤務。24歳で「茶葉輸入販売・カフェ企画」の会社を設立。茶葉の仕入先開拓からパッケージデザインまでを手掛けてオリジナル商材を企画開発。飲食店への卸やネット販売と並行し、イベント出店、カフェメニューやフリースペースのプロデュースなどを行う。



チャレンジする人を応援する場づくり



豊浜駅

豊浜駅は、香川県観音寺市豊浜町にあるJR四国予讃線の駅で、2010年10月に無人駅になりました。その無人駅の空きスペースを活用して地域を盛り上げる「町おこし駅長」という役割

を得て、地域の住民と一緒にコミュニティの場づくりを始めています。

その場所は、観音寺市内の名所が描かれた長さ8mの青の壁画が特徴的な空間で、“駅構内”、“地域住民の家”、“ものづくり基地”、“人が集う場所”など、いろいろな想いと願いを込めて「HOME」と名付けました。

大きなポテンシャルや、「レストランもできるシェアスペース」という新しい地域コミュニティの機能を併せ持ち、人が集い、様々な催しが開催され、活用される駅舎を、文化の交流や地域の魅力発信の場に育てていきたい。そして、人が持つ能力を開花させたり、叶えたい夢を持っている人の背中を押して、思いきってチャレンジできる場にしていきたいと思っています。

そのような想いに至った理由は、10年前に発症した難病

が影響してるのかもしれませんが。現在は、治療の効果もあって回復し、新たなことに挑戦したい！と前向きに考えられるようになりました。

「人の心の導火線に火をつける」ことが、私自身の新たなチャレンジをカタチにしていこうにも通じると感じており、信頼し助け合える仲間と一緒にワクワクする「HOME」を創っていきたいと考えています。



HOME利用者(地域住民)と一緒にランチの仕込み中

Policy

- ・誠意を尽くす
- ・情熱を伝える



夏詣・あんどんまつりの様子



島の小学生が制作したあんどん

信する活動を行っています。中でも小豆島町は観光地が多いため、ふるさと納税を通して「体験してもらう」ことに力を入れています。

ふるさと納税の返礼品は、その自治体の特産品や名産品などが感謝の印として贈られることが一般的ですが、近年はふるさと納税をした地域を実際に訪れ、様々なイベントやプログラムに参加できる体験型の返礼品が増えています。体験型の最大のメリットは、実際に島へ来ていただくことで、小豆島町の方とのコミュニケーションが生まれるところ。小豆島町へのふるさと納税をきっかけに、島をより身近に感じてもらえるのではないかと思います。

他にも、神社活性化の事業を行っています。この先も神社が存続していくために、若者にもっと神社との

接点をもっとほしいとの思いから、様々なイベントを企画しています。

例えば、「夏詣（なつもうで）」という東京の浅草神社発祥の新しい日本の風習を取り入れる活動を行っています。「夏詣」とは、「夏越の大祓」（なごしのおおはらい）が行われる6月30日から7月7日までの期間に、半年の節目として神社にお参りいただき、過ぎさりし半年に感謝をし、残る半年を平穏に過ごせるよう祈ることを言います。

その夏詣の一環として、小豆島の小学生が牛乳パックで作ったあんどんを神社に飾る「あんどんまつり」を企画しました。600個を超えるあんどんが集まり、想定以上の盛り上がりになりました。

地域の方と関わる際に意識していることを教えてください

地域の若い方の意見と年配の方の

小豆島町はどんな町？

人口約1万3千人で2006年に内海町と池田町が合併して誕生しました。瀬戸内海国立公園に浮かぶ小豆島の東に位置する、海と山の美しい自然に恵まれた町です。また、オリーブ、醤油、佃煮、そうめんなどの名産品も多く、老若男女を問わず、五感でお楽しみいただける町でもあります。

地域おこし協力隊になったきっかけを教えてください

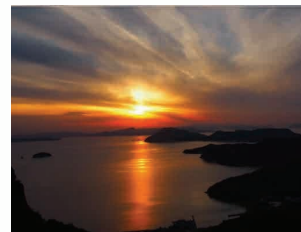
協力隊着任前は歌手活動をしており、2014年に二十四の瞳映画村でのコンサートと「小豆島を巡る唄声バスツアー」をきっかけに初めて小豆島に訪れました。



体験型返礼品に協力いただいた施設の方と話している様子

小豆島での楽しみは？

産地直送で買った野菜でスムージーを作り、毎朝飲むことや、夕焼けや冬の星空など島の美しい景色を眺めることです。



その後、2017年に、東京で「劇場街再生計画事業」や浅草のエリアマネジメントを行っていた経験から、一般社団法人ハローアイランド（現…（一社）小豆島・瀬戸内エリアマネジメント協会）の事務局員となり、新しい交通インフラであるHELLO CYCLING（シェアサイクリング事業）を小豆島に導入する活動などを行ってきました。その中で、小豆島の方々と関わりを持ち始め、小豆島の未来に、より貢献できる事業を行いたいと考え、地域おこし協力隊に応募しました。

現在どんな活動をしていますか？

小豆島の特産品や観光地での体験などをふるさと納税を活用して、発

あなたにとって「地域をおこす」とは？

温故知新の精神で、今ある地域の営み・文化・風習を継承していくために、新しい技術や手法を取り入れながらトライ＆エラーでチャレンジしていくことです。古き良き風習は変えずに、そこに付加価値をつけていくことが、地域おこしに必要なと思います。あとは、感謝の気持ちをもち続けることですね。



神社での結婚式イメージ

PROFILE

大和 美祈 Yamato Miki

茨城県出身。東京・浅草で観光地の環境整備に携わっていた経験を活かして、小豆島の特産品や観光地の魅力を、ふるさと納税を通して発信している。

今後は、ブライダル事業等のエンターテインメントコンテンツを活用して、地域にゆかりのある人を増やすことを目指している。

仕掛けを作ることが理想ですが、協力隊の資金や任期、関わり方では、長期的にデザインされた計画が立てづらく、単発に終わらせないための工夫がとても難しく感じました。また新型コロナウイルスの影響による、大がかりなプロモーションの自粛などに頭を悩ますことも多くありました。

そのような経験があったからこそ、重要視したのは、大きなイベントではなく、チラシやポスターを使った、ファンづくりに向けた地道な「草の根活動」です。美しいチラシやポスターは作ったこと自体に満足しがち



人形劇場とらまる座（西日本唯一の人形劇専門の劇場）

ですが、その効果は当然、貼った場所の数や質によって大きく左右されます。また、新型コロナウイルスの状況下だからこそ、自分たちの代わりに見る人との接点となる掲示場所や人を大切にしたいと考え、地域のみなさんへ直接、自分の言葉で熱意を持って語りかけることを心掛けました。

縁もゆかりもない中で、掲示していただくことはハードルが高く、門前払いもありましたが、最終的には想像以上の協力を得ることができました。地域のインフルエンサー的存在でもある各施設の担当者の方々は、自発的にPRもしてくださり、心強い後押しとなったことを覚えています。

「地域をおこす」ことについて
どんな考えをお持ちですか？

香川と岡山で再開発された商店街や観光地を舞台に、地域の魅力づくりやまちづくりに関わってきたこれまでの経験から、経済活動の底上げが「地域をおこす」ことの指標だと考えています。

商業面で発展するという視点でみると、活かされていない惜しい場所がたくさんあると思います。

地域では当たり前風景の中にも、魅力的なモノやコトはいっぱいあり、



東かがわ市はハマチ養殖発祥の地



手袋工場で働く地域住民

そこにしかない生活の匂い、そして、そこに住む人の息づかいが、地域の醸し出す魅力そのものだと思います。

PROFILE

榎田 修士 Kunigida Shuji

高松市出身。再開発による地域の魅力づくりに携わっていた経験を活かして、観光プロモーション、地域団体の活動サポート、既存拠点の新たな魅力づくりなどを主なミッションとしている。点や線だけでなく、横断的な活動を通して「そこにしかない」を意識して地域づくりに取り組んでいる。

榎田さんの原点は？

バイブルは、幼少期（3〜4才）に見ていたNHKの教育テレビ「たんけん ぼくのまち（※）」です。地域の不思議や社会の奥深さを知ることが、面白くワクワクしていた感覚は未だに色褪せることなく、地域おこし協力隊になった今でも、羅針盤になっています。

※1984年4月にスタートし、全160回放送された長寿番組。

東かがわ市はとても地域愛の強いまちです。これから発展し続け、外にも向かっていくには、過去や現在から学んだ地域の「らしさ」を継承し、まずは地域に愛されるモノやコトを作る、そして活かすことが重要だと考えています。



東かがわ市

HIGASHIKAGAWA

〔東かがわ市 地域おこし協力隊〕 榎田 修士 Kunigida Shuji

東かがわ市はどんな町？

人口は約2万9千人、3町（引田町・白鳥町・大内町）が合併し2006年に誕生しました。国内シェア90%以上を誇る手袋産業、ハマチの養殖や和三盆の製造など、今なお受け継がれる伝統と文化が根付く自然豊かな地域です。

普段、どんな活動をしていますか？

地元の事業者を中心に取材し、SNSを使って魅力を広く拡散したり、時には、イベントを企画するなどして地域PRに務めています。また、2022年4月に法人化した「一般社団法人 東かがわ市観光協会」の事業企画や運営サポートをしています。

直近では、瀬戸内国際芸術祭にあわせ5種類の東かがわ市の観光PRポスターを製作しました。主会場である瀬戸内の島々を中心



5種類の東かがわ市観光PRポスターのひとつ

に、来場者が鑑賞後に立ち寄りそうな県内各所の観光地や飲食店などに、一軒一軒丁寧に説明して回り、貼っていただいたことは良い思い出です。

『美しい旅の終わりに。』というポスターのタイトルは、関西圏からの出入り口にあたる東かがわ市の立地を活かそうと考えたもので、「魅力的な観光スポットや美しい景観地がある東かがわ市を訪れてほしい」というメッセージを込めています。

シティプロモーションの苦勞話や工夫されたポイントを教えてください

多数のお客様が、自ら興味を持ち、行動したり拡散してくれるような

香川県のローカルを導く人



香川県
さぬき市

黒川 慎一郎さん

Kurokawa Shinichiro

大学在学中に全国のまちづくりの先進地域を回り、地域ビジネスを学ぶ。現在は、地元に戻って起業し、一棟貸しの宿を運営中。また、地域の事業者とまちづくり協議会を設立し、海岸周辺の空き漁業倉庫の活用にも取り組んでいる。



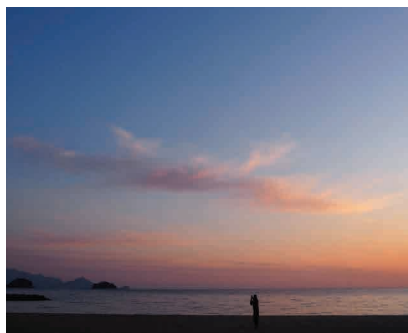
まち宿AETE

のまちづくりの先進地域を自ら視察しました。人と繋がり、知見を深める中で、さぬき市内にある祖母の家の離れを活用したゲストハウス運営を構想し、2020年8月に「まち宿AETE」をオープン。まちづくりの第一歩を歩みはじめました。

「弟子入り型+起業型」の地域おこし協力隊とは？

さぬき市では、これまでも地域おこし協力隊の受け入れをしてきましたが、定着率の低さが大きな課題でした。

就任後のサポート体制が不十分だったり、外部人材を受け入れる土壌が育っていないかったりと様々な理由が考えられますが、これらの課題に向き合い解決する時間と労力が、行政側も地域側もなかったことが大



津田の風景

きな原因だと感じていました。そこで、「弟子入り型+起業型」という新しい協力隊の受け入れ方法を考え、まちづくり協議会が採用募集記事の作成や面接、その後の研修や活動支援、移住サポート（地元の方がヨソモノにも安心して家を貸せるように、協議会名義で空き家を借りる業務）に至るまで、一貫して担当する計画を行政に提案しました。この提案が受け入れられ、2022年7月に1名を採用。採用した協力隊員はさぬき市内の津田地区で将来的に飲食店を起業することを条件に、まちづくり協議会の創設メンバー（元イタリアンレストラン・現ブックカフェを経営）に弟子入りしながら、独立を目指すプランを進めています。

津田地区の紹介

私の住む津田町は、さぬき市の北東部に位置する、人口約6千人の小さな町です。山地に囲まれ、東は津田湾に面しています。特に、津田湾の南岸一帯は、瀬戸内海国立公園にも指定されている琴林公園が広がり、日本の渚百選にも選ばれるほど自然豊かな地域です。

まちづくり協議会の取組み

人やモノ、様々なものが地域から姿を消しつつある津田地区の現状を憂う事業者やその他関連団体等が連携して、一般社団法人さぬき市津田地区まちづくり協議会を2022年



協議会の様子

現在は、移住者の受入れの土壌づくりに力を入れています。今後は、津田地区を訪れた観光客の流れを創出する仕掛けづくりにも挑戦していきたいよう、取り組んでいきたいと考えています。

津田地区が目指すまちづくりの未来

協力隊の採用に44件を超える問い合わせがありました。協力隊の採用に苦戦する自治体が多い中で、ここまで大きな反響を得ることができた理由は、津田町の理想像をまとめた「総合計画マスタープラン」の存在が大きいと思っています。そこに紐づいた募集内容の記事作成が、まちづくりの具体的な未来像の共有に繋がって、本気で取り組んでいく姿勢が伝わり、説得力を増すことができたのではないかと感じています。

また、2022年10月末に開催した「すなはまフェスティバル2022」も、このプランの一部をカタチにしたもので、津田の松原・津田ふるさと海岸の景観を生かしたTシャツアートの展示、ビーチクリーン活動など、SDGの目標達成を意識した地域活性化イベントは、まちづくりの楽しさを様々なステ

1月に設立しました。

創立メンバーは5名で、私も理事を務めさせていただいています。

津田地区の賑わいと活力溢れる地域づくりに向けて、空き家を活用した店舗開発やその運営を担う人材育成（地域おこし協力隊の導入含む）、そして、風光明媚な自然環境の保全を目的としたイベントの企画や運営サポートなどに取り組み、地域の資源や文化と人を繋ぎ、産業経済の活性化と地域社会の豊かな発展に寄与していく活動を展開しています。

まちづくりに携わることになったきっかけは？

私と同じ若い世代で「まちづくりに興味がある」という人はいても、「まちづくりを仕事にしている」という人は案外少ないのではと、日頃から思っていました。

大学に入学して地域の課題や地方の可能性に興味を持つようになり、地域活性やまちづくりの活動を行うサークルを1年生の時に立ち上げました。地域やまちの作り手として関わる交流会（ヨリアイ）や地域と連携したツアー企画なども実施しました。

専攻分野が都市計画であったこともあり、国内10ヶ所を超える数

クホルダーと分かち合う場になったと感じています。

「地域のリノベーションでイノベーションを起こしていく。」そんな想いを皆さんと共有して、津田地区の未来づくりを楽しみながら一歩一歩進めていきたいと思っています。



ビーチクリーン活動の様子

PROFILE

黒川 慎一郎 Kurokawa Shinichiro

1998年生まれ、さぬき市出身。黒川さんの行動力と発想力は、中学時代に生徒会長として文化祭の成功から感じた「チャレンジ精神の大切さ」や、独自の勉強法を編み出し志望校合格を勝ち取った大学受験時の「論理的思考や分析力」が元となっている。



私がオススメします！
琴平町 地域おこし協力隊
辻 菜摘
(Tsuji Natsumi)



自然満喫！ ちょこっと山登 くし なし によ い さん 櫛梨神社～如意山

琴平駅から北へ3kmほど行った下櫛梨に鎮座している『櫛梨神社』と標高158mの里山『如意山』。神社の境内から山頂までは遊歩道になっていて、とても歩きやすいコースです。道中には琴平町の豊かな自然を一望できるスポットがあり、山頂からはなんと瀬戸大橋まで見渡すことが出来ます！木にぶら下がったブランコに乗ったり、丸太に座ってゆったりとした時間を過ごせますよ！春には桜が満開に。登ったときには登山ノートに記録もお忘れなく！



香川県仲多度郡琴平町下櫛梨280



協力隊のオススメ 香川歩き



私がオススメします！



善通寺市 地域おこし協力隊

宮田 真央
(Miyata Mao)



キリンとブタに癒されるカフェ

ギャラリー&カフェ tama cafe

善通寺市内にはキリンが壁から飛び出した建物があります。道路沿いなのでとても目を引きます。造形作家の岡山富男さんが15年ほど前から自ら作ったキリンやブタの作品を展示するギャラリーとして使用していた建物を、2022年4月にギャラリー&カフェとしてリニューアルオープンしました！キリンやブタに癒されながらコーヒーが楽しめる空間になりましたので、ぜひ遊びにきてくださいね！営業日は私もお店に立っています。^^

香川県善通寺市金蔵寺町662-5 tel.0877-85-6820

15:00～21:00 定休日:火曜日・水曜日 <https://tamacafe-zentsuji.com>



私がオススメします！
さぬき市 地域おこし協力隊
折原 拓人
(Orihara Takuto)

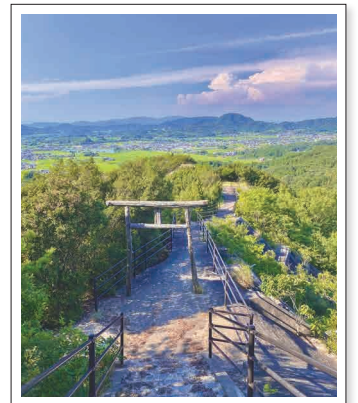
香川県さぬき市寒川町石田東

お試しハイキングをしたいならここ！

山上公園遊歩道

門入(もんいゆう)ダムに向かいにある山の上には、初日の出スポットとしても知られている山上神社があります。遊歩道を通ると山上神社と書かれた味のある木の鳥居がお出迎え。そこから広がる景色は絶景で、趣味で写真を撮る方にもひそかに人気のスポットなんだとか…。

山上神社から更に上に登っていくと、東屋と頂上に続く道があり、頂上からの景色もまた美しい！標高も高くなく徒歩15分～20分くらいで、頂上まで行けるので初心者でも登りやすいオススメスポットです！



フェアトレード商品が揃う雑貨屋 zakka カガラカン



私がオススメします！
善通寺市 地域おこし協力隊
福岡 歩美
(Fukuoka Ayumi)



善通寺市役所の程近く、蔦が覆うおしゃれな倉庫で営業する雑貨店&木工工房『カガラカン』。ふんわりと柔らかな陽光が射す店内には、食器やコーヒー、衣類など、1点1点丁寧な手仕事を感じられるフェアトレード商品や木工商品が並びます。店主がセレクトする商品たちは、長く愛用できて暮らしに優しく寄り添ってくれる逸品揃いです。立ち寄るたびにほっこりと温かい気持ちになれるお店なので、ぜひ足を運んでみてください。

香川県善通寺市生野本町2-11-21 Tel.090-6553-3088
11:00～17:00 定休日:火・水曜日 <https://lit.link/kagalakan>



いっぺん田中に来てんまい！

たなか朝市

地域の課題解決として、買い物ができる場所をつくろうと始められた朝市。生産者の皆さんと話をしながら新鮮な野菜などを直接購入できる楽しさがあります。旬を感じられ、美味しい食べ方が聞けるのも魅力です。買い物だけでなく、顔を合わせておしゃべりができる交流の場にもなっていて、素敵な朝の時間を過ごせます。スーパーでは見かけないものがあるのも、朝市ならではの楽しみ。何が並ぶかはその時のお楽しみ！



私がオススメします！



三木町 地域おこし協力隊
芳田 裕美
(Yoshida Hiromi)

香川県木田郡三木町田中3828-2
旧JA田中支店北側駐車場

毎週日曜日 8:30～9:30

Instagramアカウント

「きてんまい田中」

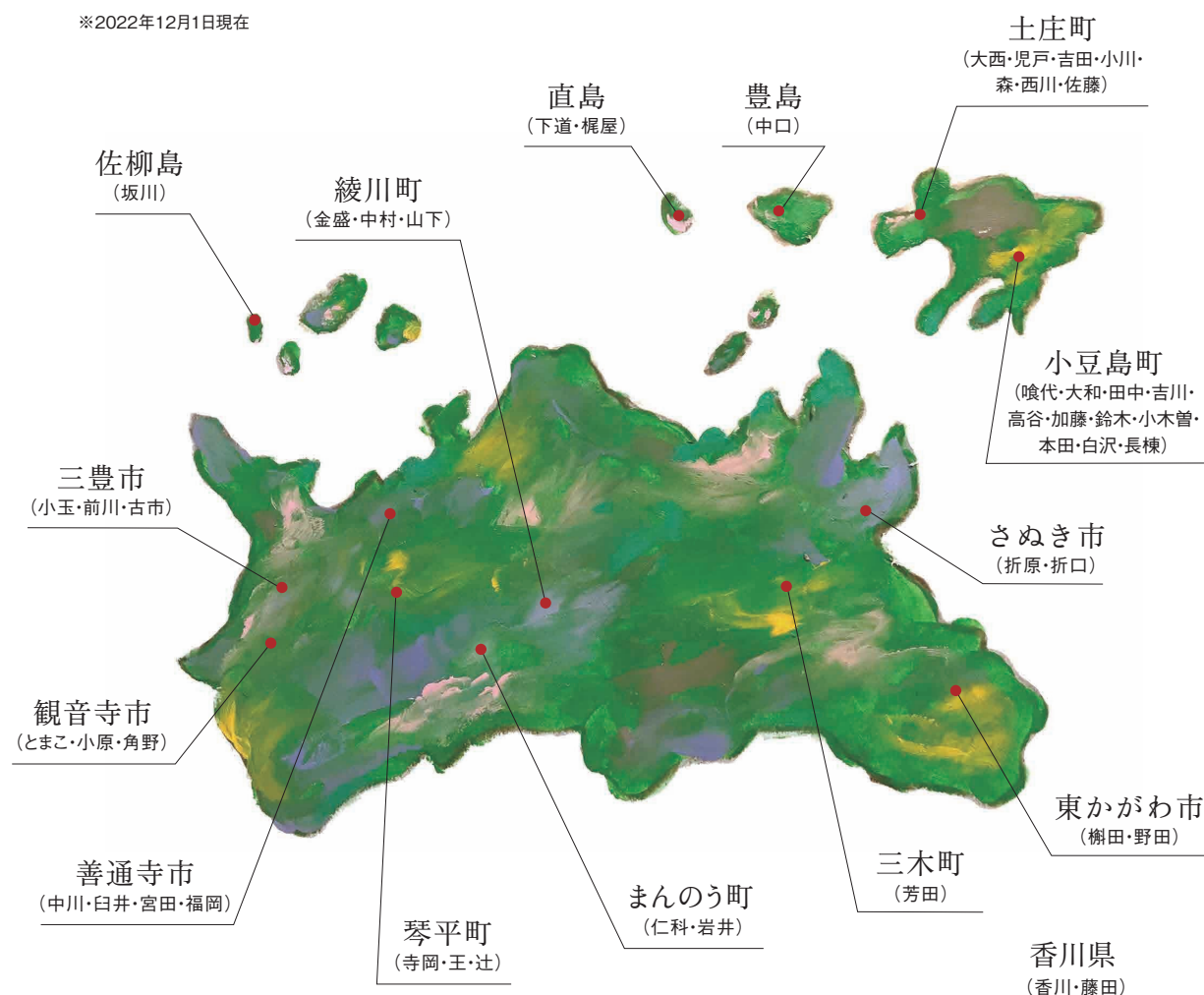
→kitenmai_tanaka



kATSUDOU-MAP

地域おこし協力隊員の活動場所

※2022年12月1日現在



隊員名簿



県内で活動する協力隊の
プロフィールが見えるよ！



協力隊活動日誌
(SNS・ブログ)



協力隊の活動が
分かる活動日記のリンクが
載っているよ！

あとがき

今回も様々なミッションのもとで活動する協力隊を紹介しました。さぬきの輪 TIMESを通じて、各隊員の活動や想いを知っていただけたら嬉しいです。取材にご協力いただいた皆様、写真撮影・執筆・挿絵・デザイン等にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

香川県の絵…本橋英里

さぬきの輪の活動

香川県では、活動報告会や研修、交流会などを通じて協力隊同士や自治体担当者、協力隊のOB・OGとのネットワーク形成を図っています。



活動地域から学ぶ

さぬきの輪の集い

自らの活動地域を超え、定期的に県内各地の視察や研修を行う「さぬきの輪の集い」。現役隊員が活躍する場所を訪ね、活動内容を学び、意見交換を行い、自治体担当者も交えて様々な活動のヒントを互いに共有し合います。



情報発信

県内協力隊員の活動を冊子やWebなどで積極的に情報発信しています。

先輩から学ぶ

さぬきの輪 OB・OG会

香川県でも増えてきた協力隊のOB・OG。任期後も今まで築いてきたネットワークを活かせるよう、交流会を通じて新旧協力隊の輪を一層広げます。頼りになる先輩方と、卒業後も会える貴重な機会です。

その他の耳縁み

他県の協力隊やネットワーク組織と連携を図り、情報交換を行っています。



さぬきの輪



地域おこし協力隊
ポータルサイト



香川県の地域おこし協力隊情報はコチラ



かがわで暮らし
しあわせ。

移住を考えている方に
かがわの暮らしをご紹介します。

ローカルライフを
始めたい！

かがわ移住ポータルサイト
かがわ暮らし



香川県に移住をお考えの皆さまに



移住フェア
などの情報を
GET！

香川県の地域おこし協力隊が
紹介したい香川県のモノ・コト

オリーブハマチ

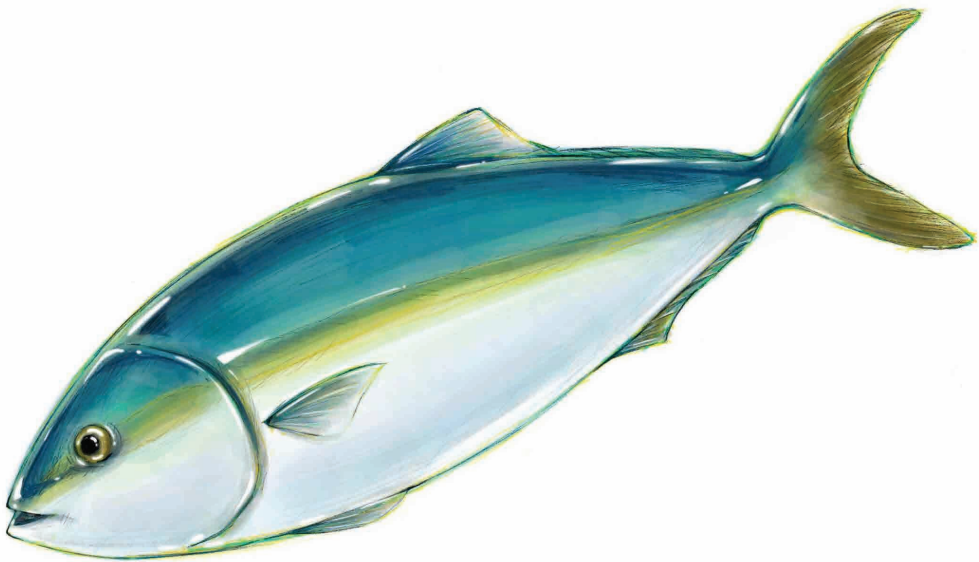
香川県産のオリーブ葉の粉末を添加した餌を
一定期間与えた養殖ハマチを「オリーブハマチ」
と呼んでいます。

品質の高さで知られ、県内のみならず、首都圏
でも親しまれています。

発祥地である香川県東かがわ市の先人が、幾度
の失敗を重ね、困難な課題にチャレンジし続け
た結果、成功したハマチの養殖。

香川県内で地域に溶け込み、課題解決に向かって
果敢にチャレンジしている地域おこし協力隊の
活動に重なります。

協力隊員たちが積み重ねた小さなチャレンジ
のひとつひとは、地域の未来へ繋がっていく
と信じています。



香川県 地域おこし協力隊
絵:香川 希 文:藤田裕子



さぬきの輪 TIMES 13

2023年2月発行

発行：香川県 地域おこし協力隊
お問い合わせ先：香川県政策部地域活力推進課

〒760-8570 香川県高松市番町4丁目1番10号
TEL: 087-832-3105 FAX: 087-831-1165 MAIL: chiiki@pref.kagawa.lg.jp